

北海道大学大学院総合化学院

CSE サマースクール 報告書

場所 なんぼろ温泉ハート&ハート
日時 2017年7月29日, 30日

主催

CSE サマースクール 実行委員会

中山勝利 (D3, 界面電子化学研究室)
阿南静佳 (D2, 物質化学研究室)
斎藤達也 (D2, 高分子化学研究室)
納谷昌実 (D2, 物質化学研究室)

相談役

原渕祐 (PD, 量子化学研究室)

教員

朝倉 清高 教授 (触媒化学研究所)

共催

北海道大学大学院総合化学院 (CSE)
物質科学アジア連携大学院 (AGS)
触媒化学研究所 (ICAT)

CSE サマースクール報告書

CSE サマースクールは理学と工学の学術的交流の場として、総合化学院学生が主体となって運営されるシンポジウムであり、2010 年度よりこれまで計 7 回開催されてきた。第 8 回目となる本年度は、なんぼろ温泉ハート&ハートを会場として、国内外講師による特別講義や学生による英語での口頭およびポスター発表を行った。また、レクリエーションとして提案型グループワークを行い、参加者間での活発な議論、積極的な交流を図った。

開催概要

日時：2017 年 7 月 29 日,30 日 (1 泊 2 日)

場所：なんぼろ温泉ハート&ハート

人数：19 人 (うち、博士課程学生 14 名、講師 2 名、教員 2 名、研究員 1 名)

特別講義

本年度は講師として触媒化学の専門家である Jochen Lauterbach 教授 (University of South Carolina) および生物物理化学を専攻する石森浩一郎 (北海道大学) に各分野の研究背景から最新の研究成果までについてご講演頂いた。いずれの講演も学生からの質問が複数あり、また様々な分野からの意見が飛び交い、大いに盛り上がった。

学生発表

本年度は口頭発表 3 件とポスター発表 12 件が全参加学生および研究員により行われた。発表内容は計算化学、材料化学、構造化学や生物物理化学など多岐にわたり、化学の奥深さや応用の可能性を改めて実感させられた。各々の分野に関係のない研究内容に関して、基礎的な部分から応用的な部分に至るまで先生・学生両方から途切れることなく活発な質疑応答が繰り広げられた。本会の理念の一つでもある「理・工学生間での学術的交流と研究の質の向上」を参加者に実感していただけたと考えられる。

レクリエーション

本年度は「提案型グループワーク」をレクリエーションとして採用した。参加者間で最も人気のある商品を開発せよ、というテーマの下、初めて顔を合わせたメンバーと限られた時間内で商品を開発、発表を行った。驚いたことにレクリエーションの時間内のみならず休憩時間や懇親会においてもグループで活発に議論する様子もみられた。発表においては、わずかな制作時間にも関わらず丹念に作成されたスライドや、寸劇を取り入れるグループなどが登場し、発表内容の独自性もさることながら相手に開発した商品の魅力を伝えたいという熱意を感じられる発表が多かった。

